名古屋市瑞穂区「多文化共生と人権尊重のまちづくりを考えよう！」報告書

日時：2022 年 1 月 30 日（日）

会場：名古屋市瑞穂区役所・オンライン

１月 30 日、瑞穂区役所「多文化共生と人権尊重のまちづくりを考えよう！」シンポジウムがオンラインで開催されました。名古屋市瑞穂区から「多文化共生と人権尊重のまちづくり」事業を地域と協同の研究センターで受託をし、シンポジウムの企画、運営をしました。シンポジウムは２部構成とし、１部は多文化共生と人権尊重をテーマの講演、２部は５名の海外出身のパネリストにお話をいただきました。

シンポジウムは、サッカーチームグランパスで活躍するブラジル出身のマティウス選手の動画メッセージから始まりました。「日本でもいろいろな外国人がサッカー選手として活躍している。１人ひとり考えは異なるが、どの国の人であっても、サッカーのように、日常でも仲良くやっていけるように」とシンポジウムのテーマにふさわしいメッセージでした。

総務省は「多文化共生とは国籍や民族など異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い多様な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」としています。「多文化共生」という言葉の背景には３つの人権理念が含まれています。（出典：近藤敦著「多文化共生と人権」）①文化の選択の自由：私たちは誰もが排除されたり同化を強制されたりすることのない権利、母語で自分を表現する文化的権利がある。②平等：人種、皮膚の色、性、言語、宗教、出身による差別の禁止。③共生：すべての人の経済的・社会的・文化的・政治的生活に参加する諸権利を保障すること。これらは日本国憲法、自由権規約、社会権規約、人種差別撤廃条約、移住労働者権利条約、ユネスコ文化多様性条約等に基づいた基本理念であり、私たちが共有すべき基本的価値でもあります。

マティウス選手はシンポジウムの冒頭で「1 人ひとり考えは異なるが、どの国の人であっても、サッカーのように、日常でも仲良くやっていけるように」とお話しされました。地域社会では住民１人ひとりが地域のプレイヤーであり、出身や国籍ではなく、住民みんなが参加してつくるチームであること、１人ひとり異なる多様な住民が平等に社会に参加ができるような仕組み作りが重要です。すべての住民が「地域社会の構成員として共に生きていくこと」ができる社会にするには、誰もが平等に社会に参加できる工夫をすること、平等に地域の役割を担うことができるような仕組みを作っていくことが大切です。例えば、母語が異なる人同士のコミュニケーションが難しいのであれば、ＩＴツールや通訳を使えるようにして、言葉が異なる人が社会の役割を担うことができるような工夫

をしなければなりません。現代では、一手間さえかければ言葉の壁を取り除くことは技術的には十分可能なのですから、言語の壁があるという幻想を私たちの意識からなくしていくための工夫をし、経験を積み重ねることです。そして、互いの不足を補いあえる関係性、できることとできないことを補い合うことで１人ひとりが持っている力が発揮される、そのような地域を一緒に作る仕組みがあり、安心して意見を言うことができる場があること、住民同士がお互いのことを知る機会があることです。支え合わなければサッカーチームは成り立たないのと同じで、支えが必要な人を支える、支えが必要なときには支えてもらい、全ての住民が社会に参加することができ、役割を担うことができる社会であれば、支え合う関係性は自然にできていくのではないでしょうか。

２部では５人の海外出身のパネリストから話を伺いました。中国出身の木下貴雄（王榮）さんは、長野県出身の祖父母が満蒙開拓団として中国へ渡り、敗戦後、生まれたばかりの木下さんの父親は中国人に育てられました。木下さんは中国で高校卒業して来日、今年で 40 年になります。フィリピン出身の石原バージさんはフィリピン移住者センター代表で、瑞穂区の住民でもあります。団地の近くに最近新しくできたコミュニティセンターで皆が集える場を作っていきたいとお話しされました。ブラジル出身の村山グスタボ秀夫さんは、日系ブラジル人の就労、生活環境をよくしたいという想いで、外国人に特化した事業を立ち上げました。最近では日本の学校に通っているブラジルルーツの若い人たちに、限られた就職先や進路しかないのではなく、日本の社会にはやりたいことができる可能性があることを伝えていきたいと話されました。イギリス出身の松井ヘイ・アヴィリルさんは、日本の社会には多様な背景を持った人がいると気がつくこと、多様な背景を持つ子どもたちが自身を否定することのないように、多様性をどう伝えるかを大人たちが学ぶ必要があり、そして現状の課題を話題にすることで変化を起こしていくことができるとお話しされました。ベトナム出身の原田美河（マカムロンハー）さんは、サッカーに例えるならば「幸せで豊かな生活を」というゴールは誰もが同じであるはず。私たち１人ひとりは異なる背景を持っているが、この社会で役割を担い同じゴールに向かってプレイしていると話されました。

これまでの日本社会の中での様々な経験もお話しいただきました。日本社会は私たちを「日本人」とそれ以外の「外国人」という２つのグループに分けているが、「外国人」と呼ばれるのはあまりいい気持ちはしない。以前の職場で、外国人従業員をハナ、タケという日本の名前をつけて呼び捨てで呼ぶという職場があったが、１人ひとりアイデンティティがあり、名前があり、出身国がある。勝手に名前をつけられたり、呼び捨てで呼ばれることはいい気持ちはしない。また「あなたは外国人だから私たちのことは理解できないでしょ」と言われることがあるが、同じ社会・同じ職場で同じ仕事をしているのだから理解していないはずはないのに、そのように言われることはとても悲しい。警戒された

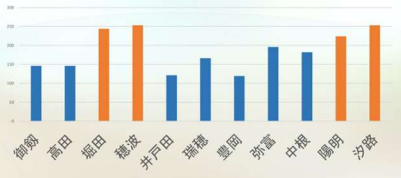
り、アパートを貸してもらえない、電車やバスで隣に誰も座らない、英会話学校で生徒に私からは学びたくないと言われたり、ある大学の採用試験では学長から肌の色が黒いことが理由で採用できないと言われたこと等、人種や性別によって特有の経
験をしている。何度おはようございますと挨拶をしても返事をしてもらえなかったが、それでも挨拶し続けた。自分のことは自分でやるようにと高齢者のゴミ出しを手伝うことを止められたが、高齢者が重いものを持っているのを手伝うのは当たり前のことで、止められても手伝い続けた。今では同じ団地に暮らす人たちとの交流やつながりがある。回覧で回ってくるお知らせの紙は、難しい表現が多くて内容を理解することができない。カタカナや平仮名で、もっと読みやすい、わかりやすい表現にして欲しい。

瑞穂区は名古屋市16区の中では最も外国人人口が少ない区ではありますが、パンデミックの状況下でも外国人人口が増加している数少ない区でもあります。区内にある市営住宅には多くの海外出身、海外にルーツのある人たちが暮らしており、区内にある名古屋市立大学のキャンパスではたくさんの留学生が学び、海外出身の教員が教鞭をとっています。2026年にはアジア競技大会の開催が予定されており瑞穂区の瑞穂運動場はそのメイン会場になります。昨年「多文化共生と人権尊重のまちづくり」事業は、感染症の状況による制限がある中で、地域住民に向けたパンフレット「外国人区民への理解を深めよう」を作成し、区政協力委員に限定をした講演会を実施しました。今年は、より多くの区民に向けた取り組みをということでシンポジウムを企画しました。当初は会場とオンラインのハイブリッドで企画を進めていましたが、感染症の状況から、オンライン配信を中心に行うこととなりました。より多くの人に視聴いただけるよう事前申し込みは不要として、当日はYouTubeライブ配信、その後もアーカイブ配信でシンポジウムの内容を視聴できるようにしました。

多文化共生と人権尊重の
まちづくり
「外国人住民への理解を深めよう！」

特定非営利活動法人　地域と協同の研究センター
研究員　神田すみれ

瑞穂区 学区別外国人人口



名古屋市外国人公簿人口(全市・区別)より作成

マテウス選手のメッセージ

日本でもいろいろな外国人が
サッカー選手として活躍している
個人の考えはそれぞれだが
どんな国の人であっても
サッカーのように
日常でも仲良くやっていけるように

2006年　総務省
「地域における多文化共生推進プラン」
策定を全国の自治体へ呼びかけ

多文化共生とは
「国籍や民族などの異なる人々が
互いの文化的違いを認め合い
対等な関係を築こうとしながら
地域社会の構成員として共に生きていくこと
（総務省）

多文化共生の背景にある
3つの人権理念

1. 文化の選択の自由
2. 平等
3. 共生

出典：「多文化共生と人権」　近藤敦著

1.文化の選択の自由

多文化共生とは
「国籍や民族などの異なる人々が
互いの文化的違いを認め合い
対等な関係を築こうとしながら
地域社会の構成員として共に生きていくこと

排除されたり、同化を強制されたりすることのない権利
母語で自分を表現する文化的権利
文化の多様性の尊重

自由権規約27条、社会権規約１５条、人種差別撤廃条約５条、
移住労働者権利条約３１条、ユネスコ文化多様性条約4条

2. 平等

多文化共生とは
「国籍や民族などの異なる人々が
互いの文化的違いを認め合い
対等な関係を築こうとしながら
地域社会の構成員として共に生きていくこと

人種、皮膚の色、性、言語、宗教、出身による差別の禁止

日本国憲法１４条･自由権規約２条、２６条･人種差別撤廃条約１条･ヘイトスピ－チ解消
法

3.共生

多文化共生とは
「国籍や民族などの異なる人々が
互いの文化的違いを認め合い
対等な関係を築こうとしながら
地域社会の構成員として共に生きていくこと

すべての人の経済的・社会的・文化的・政治的生活
に参加する諸権利を保障する

社会権規約６条、１５条

・多文化共生とは
「国籍や民族などの異なる人々が
互いの文化的違いを認め合い
対等な関係を築こうとしながら
地域社会の構成員として共に生きていくこと

「海外・外国にルーツを持つ人」と
「日本にルーツを持つ人」との共生

海外・外国にルーツを持つ人

- 日本国籍以外の国籍を持つ人
- 海外生まれの人、海外育ちの人
- 日本国籍を持つ人（帰化）、持たない人
- 日本生まれの日本国籍を持たない人

一人ひとり異なる背景

出生地　名前　母語
国籍　外見
移動時期　家庭内の文化　育った地域

原田美河 マカムロンハー　村山グスタボ秀夫　松井ヘイ・アヴィリル　木下貴雄 王榮　石原バージ

25

- 住民一人ひとりが地域のプレイヤー
- 出身や国籍ではなく、みんなが参加してつくるチーム
- １人ひとり異なる多様な住民が平等に社会に参加する

瑞穂区将来ビジョンに向けて

将来像II: 外国人区民とのコミュニティ形成
施策４：地域で協力し、お互い助け合うことができる

- 地域住民としての意識をもつ
- 役割担うことができる仕組みづくり
- 互いの不足を補い合える関係づくりの工夫
- 一緒に地域をつくるための場
- 支え合う関係性

第二部　外国人区民との コミュニティ形成支援事業

パネリスト
- 石原バージさん
- 木下貴雄（王榮）さん
- 原田美河（マ・カム・ロン・ハー）さん
- 松井ヘイ・アヴィリルさん
- 村山グスタボ秀夫さん

パネリストからのコメント・感想

・村山グスタボ秀夫さん

　同じ外国人同士でもそれぞれの背景や経験、来日の時期や経緯によって、考え方や感じていることが違うことを、改めて理解しました。そして何より、皆様のような大先輩とご一緒させていただいたことに感謝しております。とてもいい経験でした。ありがとうございました。考え方は多少違っていても、外国人のより良い暮らし、労働環境、教育、福祉制度へのアクセスを目指すゴールは同じだと思いますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

・原田美河（マカムロン・ハー）さん

　外国人は地域の一員としての役割を果たすために環境づくり、教育や医療、介護等の制度整備が必要であることはシンポジウムを通じて認識しました。
言葉や文化が違ってもより良い社会、支え合いの社会、福祉サービスが充実する社会をめざして、外国人も日本人も地球市民として仲良く一緒に歩んでいきましょう。シンポジウムに参加させていただいて、ありがとうございました。自分の思いを語ることができてよかったと思います。

・木下貴雄（王榮）さん

　福沢諭吉さんの「学問のすゝメ」の冒頭の文章のなかに、【天は 人の上に人を造らず、人の下に人を造らず】ということばがあった。“この世に人として生まれた人間は本来は平等であって、貴賤・上下の差別のあるものではない”という意味だそうです。わかりやすく言えば、人間は生まれながらにして平等なんだよ。上も下も無いんだよ。ナンバーワンにならなくていんだよ～、元々特別なオンリーワンだからね。そもそも、国籍や民族、言葉、肌の色などに関係なく、人は裸でこの世に生まれて、最初からみんなが平等なんです。すごく当たり前のことです。そのごく当たり前のことを、みんなが豊かさとともに、忘れてしまい、置き去りにしてしまい、当たり前が当たり前でなくなってしまった。そんな当たり前でなくなってしまった社会を変えるためには、おかしいと気がついた時、気がついた人から声を上げて、アクションを起こして、時間がかかるかもしれないがが、継続は力なり、次の世代に負の遺産を残さないためにも、変えていかなければならない。坂本龍馬の言葉に「時勢に応じて自分を変革しろ」があり、「日本を今一度　せんたくいたし申候」があった。時代を超えて、龍馬さん言葉に今の日本が問われているのではないでしょうか。

通訳者からのコメント・感想

・小島佳美さん

今回、通訳者として参加させていただきました。当然ながら、一人一人来日の背景やルーツも違い、それぞれの方のストーリーがあるので、ひとくくりに「〇〇人」として見るのではなく、しっかりと相手の話を聞いて、その人と真摯に向き合うことが大切だと改めて感じました。個人的にはアヴリルさんの「すべては教育から始まる」のメッセージにとても共感します。家庭でも学校でも社会の中でも、しっかりとこうした問題について学び、オープンな議論ができる場がもっと増えるといいなと思います。

・藤野裕子さん

もしかしたらコロナになってなかったら、海外（シンガポール）から参加出来なかったかもしれません。海外からのオンライン参加も障壁がなくなったから可能になったのかなと思います。ありがたいなと思いました。パネリスト全員の言葉に感動しました。そして皆さんに共通しているのが、その状況を恨んだり、相手に対して怒りを感じたりということをせずに、今の現状をどうすればより良いものにできるかに目を向けているという点だと思いました。そこが素晴らしいと思いました。建設的に何ができるかに注力していらっしゃる。ご自身も辛い経験をたくさんしてきたと思うのに誰かのために何かしようと考えていらっしゃるところも感銘を受けました。特に王さんが海外に住む日本人の話をしていらっしゃった時は自分の状況のことも考えて感動しました。また海外に住む日本人と日本に住む外国人でも交流できれば面白そうですね。ありがとうございました。

配信設営・カメラマンからのコメント

・草次健太さん

昔に比べて若い世代はネイティブに海外にルーツがある方と触れ合っているので、10代、20代の差別的なものは少なくなっていると思います。自分自身、周りにフィリピンから引っ越してきた友達や、ハーフの同級生やお隣さんが中国から仕事で引っ越してきた方などいたので、あまり物珍しさはなく、わからなそうだったらどう伝えるべきだろうと考えていました。まだまだ少ないですが僕の今までの人生の中で気付いたことは、言葉の壁は大きいと思いますが、純日本人だろうと、海外にルーツがあるだろうと、結局その人次第だと思うので、合う合わないあると思いますし、お互いが歩み寄らない限り、何も始まらないと思います。いわゆる外国人の方にも、冷たくされ

たから日本人は冷たいんだ、と一括りにするのもまた違うかと思います。その人にもその時の状況、事情があり、性格があると思います。それはどちらにも言えると思います。また、日本人側が他人ごとになるのもまた違うなと思います。日本語がわからない方がいて、行政のチラシが日本語が難しいから悪い、とか全てひらがなで書けば良いものでもなくて、言葉がわかる日本人でもゴミの出し方など全く伝わらない人もいる様に、コミュニケーションが１番大切だと思います。それがもしかしたら、ルーツのある国では当たり前でも、日本ではだめ、というのはもちろんあるので、なぜその行動をしてしまったのか、価値観のすり合わせが、多文化がともに歩んでいくのが一番重要なのではないかなと感じました。また、ご講演に関しては、偏った世代だけでなく、いわゆるミレニアル世代、Z 世代も混ぜて意見交流をすると今までなかったモノの見方があるような気がします。僕らよりも、デジタルネイティブで LGBTQ や環境問題など、情報に強く、本当に賢く、本質が見えている方が多いなと感じます。

参加者からのコメント・感想

・神田さんのお話がわかりやすかったです。五人の方々それぞれのお話も興味深く伺わせて頂きました。このような議論が各地で行われるといいですね。バージさんの御発言のとおり地域で継続的なプロジェクトが広がると素晴らしいですね。

・ライブでは観られなかったけど、動画で観ました。第一部は、一般的な話にかしらと思いつつ、それでも短いコメントから、神田すみれさんの日々の地にガッチリ足をつけた活動が伝わりました。そのお話も聞きたいです。第二部はご登壇されていたみなさんが、老人に席を譲らない、重い荷物を持たない、あいさつを返さない社会をすごい笑顔とエネルギーでぶっ壊してくれているのを感じました。彼・彼女たちのエネルギーに対するお礼というのか、何というかわかりませんが、対等な関係で、誰もが参加できる共生社会があるとしたら、市町村レベルの参政権は必須だろうなと実感しました。バージ区議会議員とかいたら素敵だなあ。そこまで突っ込んでいくのは、今回のような区のイベントで難しいでしょうか。

・とてもいいお話でした。いろいろ考えさせられました。スポーツに例えるのは、とてもわかりやすいですね。コロナでなければ、この後パネリストとの交流会などが持てると、具体的な活動につながっていくのでしょうね。子どもたちが通う中学校は、多様性、SDG’s、ジェンダー、環境と毎日のように社会問題について、みんな真剣に討論しています。次世代への教育は確実に大改革されていて驚きです。

・まだ途中までしか視聴できていませんが、参加している方々を巻き込んでの生きたやりとりと温かな空気感。今後、教壇に立つ身として学ぶところがいっぱいです。

・ありがとうございます。You Tube だったので、視聴できました。

・最初のマテウス選手のところだけ聴き逃しましたが、あれだけの人数の皆さんが目一杯お話されるとは思いませんでした。数分で一人ずつコメントするのは無理じゃないかと心配になりました。でも、皆さん見事に話をまとめていらっしゃいました。グスタボさんが話された、お母さんの職場の話は、非常に納得しました。「自分がブラジル人だからこうされる」と思いこんでしまうことはあり得る話です。ブラジル人生徒がいつも差別を訴えたことを思い出しました。グスタボさんのように、言葉のわからない親に説明してくれる人は貴重だと思いました。本国は、多民族国家で個人主義で家族愛が強いので、彼のように家族を客観的に見てアドバイスすることは重要だと思いました。彼の日本語は流暢で、とても聞き取りやすかったです。やはり、高い語学力は説得力を与えるのだと痛感しました。小学生の姪はクラスメイトを悪気なく「〇〇ちゃんは外人。」などと言っていました。父にあれはやめたほうがいいと話したら「じゃあ、何て言えばいいの？」と言われました。名前がわからない人の場合は「外国人」と言うしかないような気もしますが、それも気にされるとなると困りますね。「外国にルーツがある人」などという言い方は、まだ一部の方しかしていないように思います。田舎のお年寄りは、ちょっと前まで「外人さん」と言っていたし、「外国人」という言い方が悪いだなんて思っていません。

・日本語教師の関係者に紹介しました。みなさんとても興味を持たれて積極的に視聴し、感想を送ってくださいました。一つ気になったのが、今回シェアした全員がこのフォーラムのことを知りませんでした。この分野に興味関心のある方々に講演情報が届いていないとなると、地域住民の方々の目に留まるようにするにはどうしたら良いのか・・・広報って難しいですね。　アーカイブを残してくださったことで、それぞれのタイミングで視聴ができ、また、事後シェアが可能となったので有り難かったです。

・こういったフォーラムを聞いていると、頭が固いのは大人で、それも現状を見ずに、固執した自分の考えでことを動かそうとしているのに問題があると、よく感じます。一人一人の生活をよくするように、外国にルーツがあっても（もちろん日本人でも）、自分ごととして世の中を変えていくためにできることを、いつでもだれでもどこにいてもシェアで

きるしくみがあればいいな、と思っています。私のような個人的なボランティアの立場だと特に、少しだけでもできることを、もっといっぱい知りたいです。

・講演会で「多文化共生」や「日本語教育」を揚げるとそれに興味がある人だけが集まりがちです。私はいくつもの研修や講演会に参加させてもらっていますが、よく再会する方々がいてすっかり顔なじみになることもありますし、ものによっては同窓会か！？と思うほど他の講演会と似通った参加者が集まることがあります。そこに集まる面々はだいたい外国ルーツの方々への心得があったりします。でも行政が行わなければならないのは、「元々外国人とそんなに接した事がないのに、じわじわ増えている外国人住民に戸惑いを感じ始めている地域住民」へのアプローチだと思っています。今回、マテウス選手の登場と YouTube での配信は普段なかなかこのようなテーマに目が向かない地域住民の方々に多少なりとも届いたのではないかと思います。今後も日本で過ごされている様々なジャンルの外国ルーツの方（一般地域住民の目に止まりやすそうな方）と協力して、このような配信がなされればと思います。

・多文化共生社会をサッカーに例えたのはとてもわかりやすく印象に残りました。実際に海外にルーツのある方々の具体的な話が参考になりました。ドイツで生活していた時に日本人の高齢者向けボランティアに登録していました。実際に活動することはありませんでしたが、外国人として介護や認知症になったときに様々な問題があり、母国を知っている人が身近にいることの心強さを設立者が話していたことを思い出しました。国だけでなく、さまざまな差別や争いなど個人個人の多文化共生ができたらいいのに、と思います。みんな地球人という枠になればいいのに、と絵空事ですが思っちゃいます。まずは自分の行動を意識し、自分がまずは自分の行動を意識し、自身がまずは差別しないように改めて心がける良いきっかけになりました。ありがとうございました。

・YouTube 拝見させて頂きました。とても濃い内容で素晴らしかったです。先日日本語教室で瑞穂区のお話が出ていたので、私にとってとても旬な話題でした。パネリストの皆さ

んは、色々なご経験をされ、その苦労された事を今に繋げ、さらに未来へ繋げようとしている。そんな皆様のお話がとても力強く心に響きました。そして、何より神田すみれさんの進行が温かく、細やかで丁寧なフォロー、明確でコンパクトな聞き手にわかりやすいまとめ方はとても素敵でした。今回の皆さんのお話を聞いて、多文化共生とは、と私自身考えていました。困っている人がいたら助ける。一緒に手を取り合って、共に成長していく。実は子どもの頃の私達は当たり前のようにやっていた事なのではないかなと思いました。日本人一人一人がもっと真剣に向き合い、意識したらきっともっともっと暮らしやすい社会となるだろうなと思いました。当たり前の事を当たり前にやれない大人になってしまっている自分に、もう一度カツを入れたいと思います。今回皆さんのお話は色々な角度から聞くことが出来、本当に勉強になりました。ありがとうございました。

・瑞穂区の地域コミュニティの活性化は、私も今後の取り組みとして関心があり参考になりました。先ず、パネリストが福祉、介護、高齢者、就労、教育とそれぞれで活躍されていて5人がそれぞれ凄い人達で話の中身が濃かったです。フィリピンの方でしたか。団地の役員をやっていて重い荷物を持っていた人を手伝おうとして会長さんがダメだと言われた話、先ずは自分からあいさつしてコミュニケーションを取ろうとした話、日本人と一緒にできる事をやろうとしている話など前向きな内容が非常に良かったです。私の地区にある県営住宅で共生についてやろうとしていますが、このフィリピンの方の様なキーマンを探そうとしています。参考になります。団地の回覧板の漢字が多いので、やさしい日本語のチラシを作って読みやすい物でやりたいと言っていましたが、行政の力を借りればと思いました。大府市では、市の担当課に頼むと翻訳や、やさしい日本語でチラシを作ってもらえます。外国人はなんなのかという話が出ましたが、確かにどう定義できるのか分からなくなりました。一括りに外国人と言うのはおかしいですね。国籍や母語、話している言語、文化などルーツは色々ですから。最後に中国人の人でしたか、民政委員の多文化版を作ればと言う発言は、これから必要だと思いました。いいアイデアですね。今後更に増える外国にルーツを持つ高齢者の相談相手となる見守りする人が必要と思いました。

・地域共生ということでLGBTQや障害のある方なんかも同じだなぁと思って見ていましたら、ちょうどコメント紹介に出てきました。LGBTQや障害のある方々も、長い年月をかけて、すこしずつ色んな事が認められたり、環境がすこし改善された部分もあると思うの

で、このような活動は大事なのだなぁと思いますし、実際に動ける方を尊敬します！同じ日本人でも貧富の格差、教育や労働の差もあれば、若者や老人の価値観の差もあるし、全てにおいて、そうである人とそうでない人との間の壁が段々なくなる世界、理解し合おうとする世界になると良いのになぁ、と思いながら見ました。今回のお話も、そもそも興味のある方、何か関係のある方、理解のある方が見ているのではないかと思うので、もっとそうでない方々に情報を広げられたらなぁと。ハーフタレントとか外国人俳優で苦労された方もいるようですが、彼等は何か活動はされているんでしょうか？YouTube などでも配信はされているんでしょうけど、なかなか広げられないんでしょうか。時間の短い TikTok かなんかで、多文化共生について知らない若者達に、何か良い情報がバズったりしても良いですね。新庄ビッグボスも他競技アスリートから教えを請うたり、オリンピック選手も「オリンピックはいつもの大会と違って他競技との交流があるのが面白い」と言っていますよね。それも同じかなーと思っていて、自分の世界だけの理解や拘りばかりでなく、考えや行動も柔軟にしていく必要がありますね。賛同はできても、なかなか自分が直接の活動に携われていないのですが、思考としては意識していきたいと思います。日本人同士でも、子どもの PTA 役員はやらないとか、マンションの隣の家の人を知らないとか、町内会活動も無いとか、しかもコロナ禍で活動制限。そんなだと SNS が発達しても、都会での人間同士の共生って難しいですよね。

・身近に外国籍の方が増えているのは知識としては知っていたのですが、今回、名古屋に住む方々に直接お話を聞くことで、それが実際自分のすぐ身の回りであることなんだと実感しました。「直接自分の生活とは繋がってないけど、外国と関わりのある方が増えているし、これからそれらの方々に日本で働いていただかないといけないし、私達は多様性を受け入れていかなくてはいけない」と思っていましたが、そうではなく、今日私が食卓に並べたおかずも、日本に住む外国と関わりのある方の手を通して私の所に来ている可能性もすでに高いと言うこと、また多様性を受け入れると言うより、ワンチームとして協力して未来の日本を支えていくのだというイメージを持つことができました。さらに意識を変える事が出来て良かったです。

・マテウス選手のサッカーに例えられていたお話で、皆さん同意されていて私も同様に感じました。また、ゴールは何を設定するのかということも考えていくべきことだな、と思いました。 最初に選手が話をしていて、来日するスポーツ選手は多くいますが、彼らも実習生など外国人と呼ばれる人同様に、私たちの社会を形成する一人なのだな、と気付かされました。スポーツ選手やモデルさんなどルーツによってかっこいいと思われたり、待遇やビザによっては排他的に扱われてしまうことのギャップを感じました。「多文化共生」などに関する講習会は多くあると思いますが、区を分けて自分の地域の話として掲示されると、身近なものとして問題理解につながったり、真摯に向き合える気がしました。瑞穂区は馴染みがある地域なのでとても参考になりました。 パネリストの皆さんのお話を聞いていて、海外にルーツのある方たちは自分のルーツやファミリーヒストリーをよく知っていると感じました。また多様な観点から日本社会を見ていると思いました。実際の方々のお話を聞く機会があるのは本当に貴重ですね。具体的な問題や意見を聞けて参考になりました。 海外に一時期住んだことのある身としては、外国に住む日本人に関して一言あったのが嬉しく思いました。外国・外国人に縁のない日本人の立場を考えると、海外在住経験のある日本人の話 （どんな問題があって、何に困っていたのか等）を知ってからの方が、日本に住む海外ルーツを持つ方達の理解に繋がりやすいのかな、と想像しました。貴重なお話ばかりでした。ありがとうございました！

・最初のマテウス選手のメッセージから始まり、神田すみれさんやパネリストのみなさんがスポーツを引き合いに出して多文化共生の話をしているのがすごくわかりやすいなと思いました。多文化・国際というキーワードだと残念ながらあまり地域に最初は受け入れられなかったりすると思うのですが、スポーツの話と絡めるとあまり関心のない方にも伝えていきやすいかなと思いました！外国人とは誰なのか？〇〇人とは誰なのかということについて、みなさん触れていらっしゃいましたが、何人ということで一括りにせず、ルーツや育ってきた背景の違いを認めて、みんな違うからこそよりよい社会を作っていける、という雰囲気ができていくといいなと思いました。そういう社会を実現するためにも、教育や行政、地域住民など多方面から多文化共生について考えて、自分ごと

として実践していくことが大事だと改めて思いました。今後はより「多文化子育てサロン」などなど気軽にみんなが交流できる場ができていくといいなと思います！

・日本語教師養成講座の仲間内グループLINEにアーカイブをシェアしたのですが、昨日も「外国人と言うのは、何を指しているのか？パネリストの中国人の方の経歴でも？何をルーツとするのか？分かりません。」や関連する新聞記事や書籍をみんなでシェアしたり、と引き続き盛り上がっています。このまま終わってしまうのが、なんだかもったいない気がしていて勉強会を企画したいと考えています。

・講演はわかりやすかったです。サッカーに例えたのはよかった。対象者を想定してわかりやすくどのように考え方を変えていくかを伝えることができていたと思います。登壇者の生の声は重たい。内在した思い、差別的な思いはまだ自分の中にあると思いました自戒を含めて聴きました。

・マテウス選手の話はどういう問いに答えていたのかが最初はわかりませんでした。聞いた人は何だったかなと最初は思っただろうと思うので、講演のなかでマテウス選手の話した内容を繰り返したのはよかったです。区民も瑞穂区のビジョンをあそこまで説明をされることはないでしょうし、政策や人権の話もされて、これだけの中身が話されたことはよかったと思います。

・内容の濃い時間でした。こんなにいろんな方が話をされたことで、いろいろな背景の人たちがいることがよくわかりました。皆さんすごく苦労をされているはずなのに、日本の社会と関わってくださっているのはありがたいことです。そして、地域の関わりとネットワークを築いていらっしゃるのはすごいことだと思います。いろんなことをしている人たちが参加していいて、瑞穂区全体の認識が上がっていくといいなと思いました。